

## 今年度の学校研究のまとめ

今年度、研究主題「自ら気づき、考えて行動する生徒を育成する授業づくり」の実現に向け、総合的な探究の時間に焦点を当て、深い学びのある授業づくりを目指し、取り組んできた。

校内授業研究会、研究学年会、学校研究へのアンケートなどから、次のような成果と課題が挙げられた。

### 1 成果

- ・本校の総合的な探究の時間で扱っている進路学習の内容は、年間指導計画に3年間を見通して段階的に学習を積み上げていくように学年毎に設定されていることを確認できた。
- ・進路学習の内容を整理しながら、具体的な単元計画を立てることで、生徒が自分の将来や働くことと関連付けて考え学習することができた。また、1年間の行事や他教科、生活単元学習とのつながりを考えたことで、生徒は身近な生活に絡めた課題に気づき、自分事として主体的に探究学習に取り組んだ。
- ・「自ら気づき、考えて行動する」生徒像について各学年で共有し、また、そのための「発問」や「学習内容」について話し合い授業づくりを進めた。1年間でどこまで目指すのか、生徒に“何に”気づき、“何を”考えてほしいか等を確認し、ねらいを明確にして授業を行った。
- ・最初の単元で学んだことを、次の単元に生かして発展的に学習を繰り返すことで、生徒一人一人が自分の考えを深めながら、学ぶことができた。

### 2 課題

- ・各単元において、探究的な見方・考え方を働かせるための「発問」や「学習内容」について吟味検討したり、授業改善の話し合いを十分に持ったりすることが難しかった。事前の話し合いだけでなく、単元の中で評価し、改善していくことが必要である。
- ・生徒自身が課題を見つける過程や、課題を解決する探究活動を大事にするために、単元計画を立てる段階で、より十分な生徒の探究活動の時間を確保する必要がある。
- ・授業では、主発問だけでなく、生徒一人一人の実態に応じた補助発問や補助説明を用意しておく必要がある。
- ・総合的な探究の時間について、各学年の年間指導計画はあるが全体計画が示されていない。本校の教育目標とのつながりや学年の目標、基本的な内容や方針等について構造的に示すことで、学年間の連続性や発展性を明確にして進められるとよい。

### 3 1年次のまとめ

今年度の学校研究では、総合的な探究の時間の年間指導計画の整理と、探究の見方・考え方を働かせる「発問」や「学習内容」の工夫に取り組んだ。はじめに、全体で総合的な探究の時間の目標や特質、探究の見方・考え方について改めて確認し、研究主題である「自ら気づき考えて行動する」生徒像について、アンケートや研究学年会で考えを出し合い共有した。

年間指導計画については、進路学習と関連させながら各学年で整理されてきたものを活用して、必要時、学習時期や単元の配置を見直した。3年間を見通した内容が整理されているが、

今後は、学年毎の段階的な目標設定や、生徒がより探究活動を充実できるための、学習内容の精選、学習形態の模索をしていく必要がある。本校の取り組みを全体計画で構造的に明確に示し整理することで確認・共有できるとよい。

授業においては、本校の「職業や進路に関する」探究課題について、生徒が現在と卒業後の将来に直結する自分の課題として、「自ら気づき考えて」探究学習に取り組むための工夫を行うことができた。探究の見方・考え方を働かせる「発問」や「学習内容」について、生徒が活動を通して積み重ねてきた知識を生かして主体的に学習しようとする姿勢を引き出すものとなった。ただ、生徒の探究学習を発展的に展開し学びを充実したものにするためには、単元の中で、また次単元に向けて教師間で話し合い工夫・改善を続けることが必要である。限られた時間で効率的に話し合うための状況づくりに努めたい。

12月の公開研修会では、山形大学教授 野口徹先生から助言をいただいた。総合的な探究の時間は、「調べ学習」ではなく、情報の収集は、インターネットでは見つからない事を、観察、実験、見学、調査、探索、追体験等によって行うものであること。探究においては、周囲とのつながりをも自ら作り出し、失敗も経験として再考を重ねること。教師が教えるのではなく、生徒自身が気づき探ることで力が付くものであること等、大事なことをご教示いただいた。紹介いただいた他校のプロジェクト型学習の事例も含め、本校の授業づくりの参考としたい。

今後に向けて、総合的な探究の時間の全体計画を整え、望む姿としての「自ら気づき、考えて行動する」生徒像を共有し、探究の見方・考え方を働かせる「発問」「学習内容」のさらなる工夫を重ねていく。教師間の話し合いを大事にし、協働して深い学びにつながる授業実践を行っていきたい。